

第74回東葛しぜん観察会

秋の利根運河を見てみよう

木村将夫 (流山市)

日 時: 2011年10月2日 (日) 9時30分~14時 天気: 曇り

場 所: 利根運河~理窓会記念自然公園の散策 (流山市)

参加者: 一般 32名 指導員 17名

担当指導員: 小島紀彦 大木陽子 木村将夫

今回は秋の七草を中心に万葉集の歌の世界を味わいながら、利根川と江戸川を結んだ川の道「利根運河」の自然と文化遺産、並びに理窓公園の秋を観察してみました。

秋の七草は藤袴、萩、ススキ(尾花)、クズ(葛花)、オミナエシ(女郎花)を観る事が出来ました。残念ながら、キキョウ、ナデシコの花は見つかりませんでした。なかでもオミナエシは満開で見事でした。オミナエシの傍らにはワレモコウの花が控えめに咲いていました。「ワレモコウの花は俺の心境に似ている」とのつぶやきも聞こえました。実りの秋にふさわしい民家の庭先の柿の実も色づき始めました。理窓公園の入り口の手の届く高さにはムクノキの実が熟していました。一般参加者は初めての人が多く、皆で試食してみました。大変美味でびっくりしていました。その他、カヤの木の実、コナラ、クヌギ、シラカシ、マテバシイのドングリ、プラタナスの実、栗の実、オニグルミ、テウチグルミの実とも出会うことができました。おなじみでもクサネムの実を皆で観察しました。利根運河のクサネムの実と指導員の方が持参された熱帯に生息する世界最大といわれるモダマの実の大きさの比較もしてみました。

同じマメ科と節果でありながら、その大小の格差にびっくりしました。

湿地にはヨシ(アシ)が群生していました。「人間は考える葦である」のパスカルの言葉を思いながら皆で手にとって観察してみました。ヨシの葉が強風や洪水のときにどのように対応しているのか、その葉の仕組みを覗いて驚きました。水の流れや風の流れに逆らわずにすばやく復元する様は、パスカルを感動させたのでしょうか。自然の素晴らしさを再認識させられました。観察会の時期としては大変恵まれており、理窓公園の自然の小径には金木犀や桂の木の葉の甘い香りが漂い、彼岸花はあちこちに咲いており、盛秋の一日を満喫させてくれました。

参加者は、横浜か横須賀等からも来られており、利根運河の存在に驚かれたようです。

①運河の文化遺産と自然の保全を持続希望されていました。②観察会に参加してこれからの熟年の過ごし方に灯火が見えた。③草花や木の実等の名前を少し覚えることができた。これを機会にもっと勉強して自然を楽しみ、大事にしたい。

④今度は友達を誘って是非参加したい等の意見が聞かれました。

今回の観察会も担当者のご努力と多くの指導のご協力で無事終了しました。又次の観察会も皆様と楽しみたいと思います。



センボンヤリは閉鎖花です